

ウエストナイルウイルス

アルボウイルス感染症は、**arthropod-borne virus** の総称。つまり、節足動物によりヒトや脊椎動物に伝播するウイルス性疾患である。ウエストナイルウイルスはフラビウイルス属。

1973年にウガンダで発見

1999年突如アメリカで発生、これまで約17,000人以上が感染 700人以上が死亡

日本を含むアジア・太平洋地域での報告なし

ロシアでの流行地域の拡大が懸念されている。近年、ウラジオストクなど極東地域でも野鳥から確認されている。

ミヤマカラス、コガモ、ハシブトガラス、アマサギ、クロハゲワシなどで感染確認

ただ、アメリカのものより病原性は弱いとされている

このこともあり、ロシアからの鳥の輸入は現在規制されている。

感染

・ 宿主動物

鳥：その体内で増殖

・ ベクター（媒介動物）

蚊：吸血により他の鳥およびヒトを含めた哺乳類、爬虫類に感染

ウイルスに**感染した鳥** 蚊 ヒト ・ ・ ・ **感染成立**

ウイルスに**感染したヒト** 蚊 ヒト ・ ・ ・ **感染不成立**

・ 感受性

ヒトの場合、顕性感染（発症）するのは20%、命に関わるような重症化するのはその1%（つまり0.2%）。

* 感染しても発症しない場合は 不顕性感染と呼ぶ

感染してもほとんどは無症候性。脳炎、出血熱、関節痛・皮疹が臨床上重要である。

通常型は急激な熱発に、頭痛、目眩、発汗、時おり猩紅熱様の発疹、リンパ節腫大、口峡炎を合併。

第3-7病日に解熱し、短期間に回復。

脳炎型は重篤で、高齢者によく見られる。中央アフリカなど一部の国では劇症肝炎を併発している。

不顕性型は頻繁で、小児に多い。

これらより

輸入した鳥

訓練に使用するハト

訓練中の野鳥・野生動物との接触

から感染するリスクがあり注意が必要である。